治体への支援を積極的に行っています。

国では、地籍調査を計画的に進めるため、令和2年度から令和11年度までの「第7次国土調査事業十箇年計画」を定めています。令和6年には中間見直しを行い、残された課題や、今後どのように地籍調査を進めていくべきかについて議論を重ねました。この検討には、布施教授や前葉市長にも委員としてご協力いただいています。

新たな技術で次世代へ確かな地図を残す

市長　この中間見直しではさまざまな議論があったと思います。今後地籍調査をどのように進めていくべきか、布施教授のお考えをお聞かせください。

布施　調査が遅れている都市部や山村部で、いかに効率的に進めていくかが課題になります。そのため、都市部では自動車で走行しながら周辺の三次元データを取得するMMS、山村部ではリモートセンシングなどの新技術を活用することも重要です。国によるモデル事業などを通じて成功事例を積み重ね、ノウハウを共有しながら、調査の効率化につなげていく必要があります。

市長　津市でも、こうした新しい技術を使いながら、「地図を残す」という強い思いで進めていきます。

藤本　正確な地図を作って後世も使えるようにすることは地籍調査の目的だと思っています。国土交通省としても津市の取り組みを一つの先行事例として、広げていきたいと考えています。

市長　十箇年計画もいよいよあと3年となってきました。地籍調査をさらに進めるための新たな取り組みも始まっているそうですね。

藤本　残り3年で地籍調査をしっかり進めていくために、6月に新しく3ケ年加速化施策パッケージを公表しました。調査の迅速化や他事業連携、新技術活用、公益化・共同化、インセンティブの大きな5本の柱を設け、集中的に取り組んでいきます。

市長　大変心強いです。一方、ここまで災害時の復旧において重要だという話もしてきましたが、令和6年の能登半島地震では、地籍調査が完了していた地域でも現況とズレが生じる事例が発生したと伺っています。

藤本　側方流動という土地が水平方向に移動するといった現象が発生し、復興への支障が懸念されました。そこで国や専門家で「土地境界再確定加速化プラン」を策定し、特に被害が大きかった内灘町へは、津市から地籍アドバイザーを派遣いただき、現地での立ち会いなどで大変ご協力をいただいております。

市長　布施教授も現地をご覧になられたと伺いました。

布施　側方流動の影響の大きさを痛感しました。土地の境界を再確定するためには、多くの人手だけでなく、地域の事情を理解し、専門的な知識を持つ地籍アドバイザーのような人材の力が不可欠だと感じました。

市長　災害が起きてから土地の境界を確認することの難しさを考えると、社会のインフラとして平時から地籍調査を進めておくことが重要だと感じます。布施教授、これからの地籍調査について一言お願いします。

布施　地籍調査は、適正な土地利用や管理、円滑な土地取引を支えるだけでなく、都市再生や災害の復旧・復興につながる重要な取り組みです。

土地は皆様の私有財産ではありますが、公共の福祉と切っても切り離せない状況にあります。市長が言われる「地籍調査は社会のインフラ」という考え方を、国全体で共有できると豊かな国づくりにつながるのではないでしょうか。

市長　本日は、さまざまな角度から地籍調査の重要性について貴重なお話をいただき、ありがとうございました。地籍調査が「社会のインフラ」であるとの認識を市民の皆様と共有し、今後も着実に推進していきたいと思います。



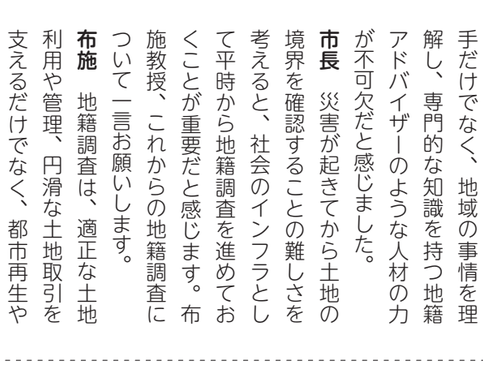
動画で対談全編がご覧いただけます

MAYORS TV SHOW

津市 市長対談

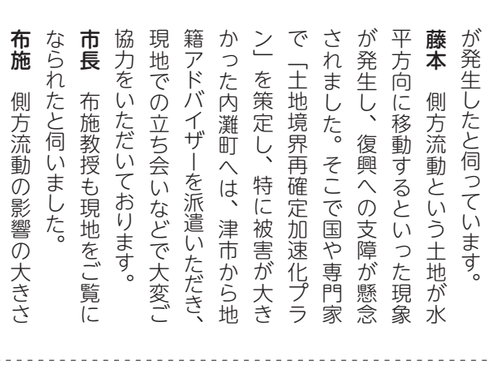
地籍調査で未来へ地図を残す

地籍調査前



地図に準ずる図面(和紙公図)

地籍調査後



地積測量図

正確な地図があると…

くらし

- **土地の売買**：境界が明確になり、安心して取引ができるように
- **相続**：境界をめぐるトラブルを防ぎ、手続きが円滑に

防災

- **災害時の復旧・復興**：被災後の土地境界の確認がスムーズに

まちづくり

- **公共事業**：用地取得が円滑に進み、事業がスムーズに

地籍調査で作られた正確な地図は法務局に備えつけられ、世代を超えて土地の情報を確認できる未来へ残る地図へ

新技術を活用した地籍調査

現在の測量方法

境界の各地点で作業員が測量する必要があり、多くの時間と手間がかかる。

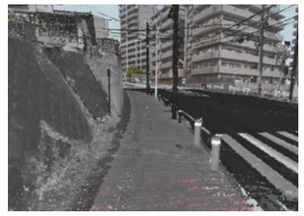


都市部　MMSによる測量（モービルマッピングシステム）

車両に測量機器を搭載し、道路や地形、街並みの撮影や座標の計測を走行しながら行うことができ、従来の手法より効率的に測量することができます。



MMSを搭載した自動車による測量

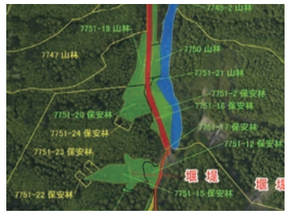


MMSで取得した点群による３Ｄデータ

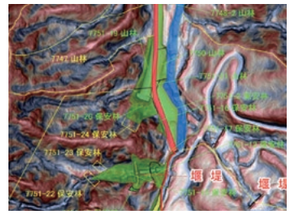
山村部　リモートセンシングデータを活用した調査

航空機やヘリ、ドローンによって遠隔から測量する手法で、これまで斜面など人が行きにくかった場所でも測量することが可能で、現地立ち会いもリモートで行うことが可能に。調査した地籍データを森林境界明確化事業と共有することで森林保全にもつながります。





航空写真を真上から画像にしたもの



地形の凹凸を濃淡で示したもの